



米国穀物レポート コーン・大豆

2015年8月13日

日本テクニカルアナリスト協会

検定アナリストCFTe

玉川博一

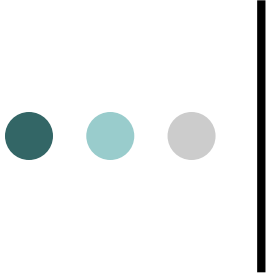
8月発表USDA需給報告

概要と分析

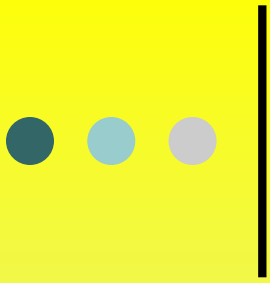
出所: 米国農務省

 岡安商事株式会社





このレポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性に関する責任を負いません。このレポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っている場合があります。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。



とうもろこし (Corn)




8/12日USDA発表

2015／16年度米国コーン

作付面積	:	8890万エーカー	(8890万エーカー)
収穫面積	:	8110万エーカー	(8110万エーカー)
単 収	:	168.8Bu	(166.8Bu)
期首在庫	:	17億7200万Bu	(17億7900万Bu)
生 産	:	136億8600万Bu	(135億3000万Bu)
輸 入	:	3000万Bu	(2500万Bu)
供給合計	:	154億8800万Bu	(153億3400万Bu)
飼料用	:	53億0000万Bu	(52億7500万Bu)
食品・種・工業用	:	66億2500万Bu	(65億8500万Bu)
内エタノール	:	52億5000万Bu	(52億2500万Bu)
輸 出	:	18億5000万Bu	(18億7500万Bu)
消費合計	:	137億7500万Bu	(137億3500万Bu)
期末在庫	:	17億1300万Bu	(15億9900万Bu)
在庫／消費率	:	12.4%	(11.6%)

米国コーン生産高は136億8600万Buと 予想とは、真逆の上方修正。

- 2015/16年イールドを+2.0Bu、生産高を+1.56億Bu、期末在庫+1.14億Buの上方修正となり、下方修正予想を覆す真逆の弱気サプライズとなった。飼料その他とエタノールをそれぞれ2500万Bu引き上げ、輸出を2500万Bu引き下げ。
 - 2014/15年度米国コーン期末在庫を17.72億Buに700万Bu下方修正。
 - 6月からの大雨による肥料流出、作柄低下で予想されたイールドの引き下げはなく、予想164.5Buに対し、168.8Buと大幅に上回りました。よってコーン生産高見通しは136.86億Buとロイター予想平均133.27億Buを大幅に上回り、全く真逆の結果となりました。
 - 2015/16年は、飼料その他とエタノールをそれぞれ2500万Bu引き上げ、輸出を2500万Bu引き下げ、期末在庫は17.13億Buと予想平均14.24億Buを上回りました。



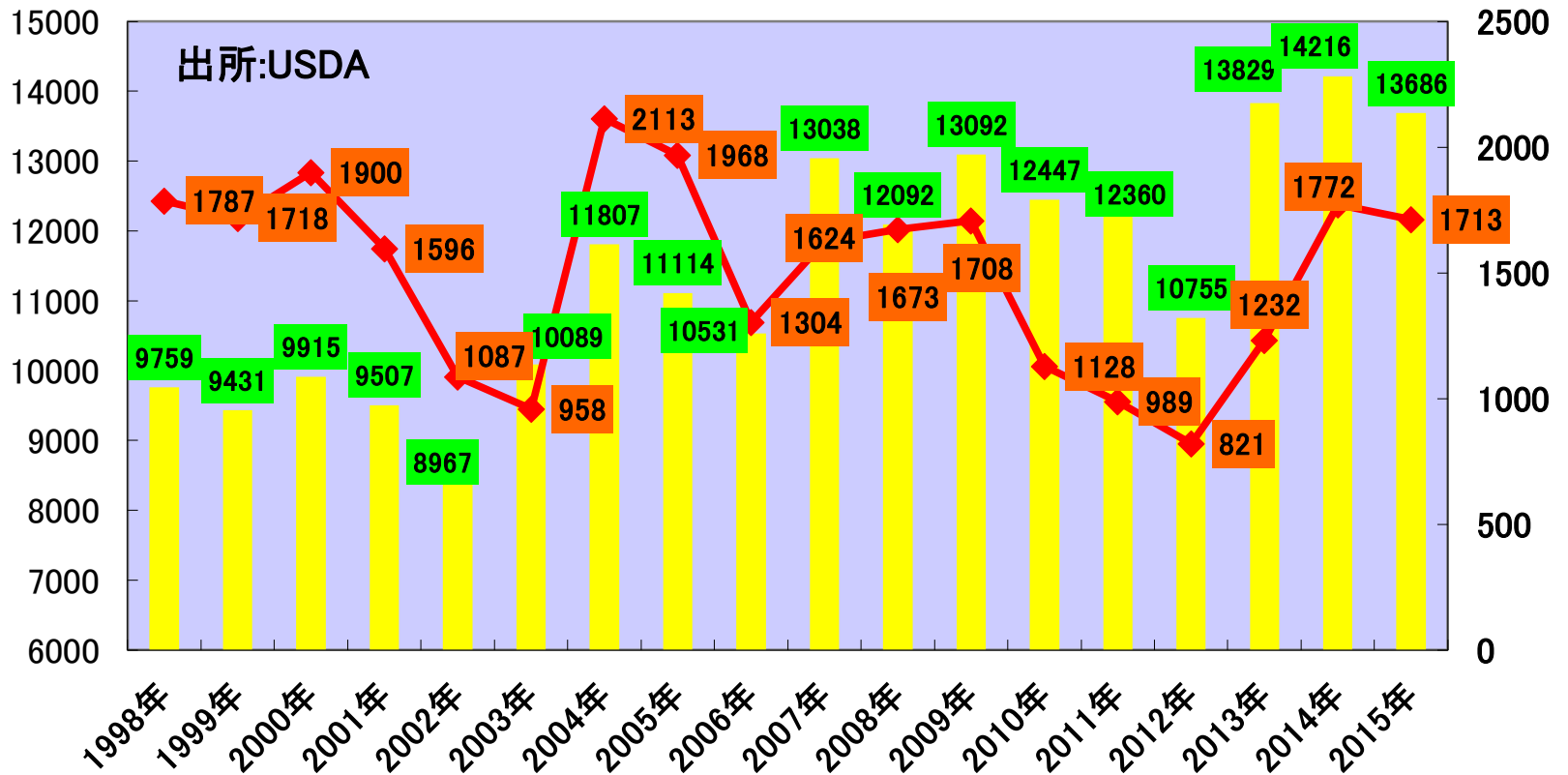
コーン主要生産州イールド /1エーカーあたり

- アイオワ 183Bu(前年178Bu)
- イリノイ 172Bu(同200Bu)
- インディアナ 158Bu(同188Bu)
- ミネソタ 184Bu(同156Bu)
- ネブラスカ 187Bu(同179Bu)

2015/16年期末在庫は、1億1400万Buの 上方修正

米国コーン生産高と期末在庫

百万Bu



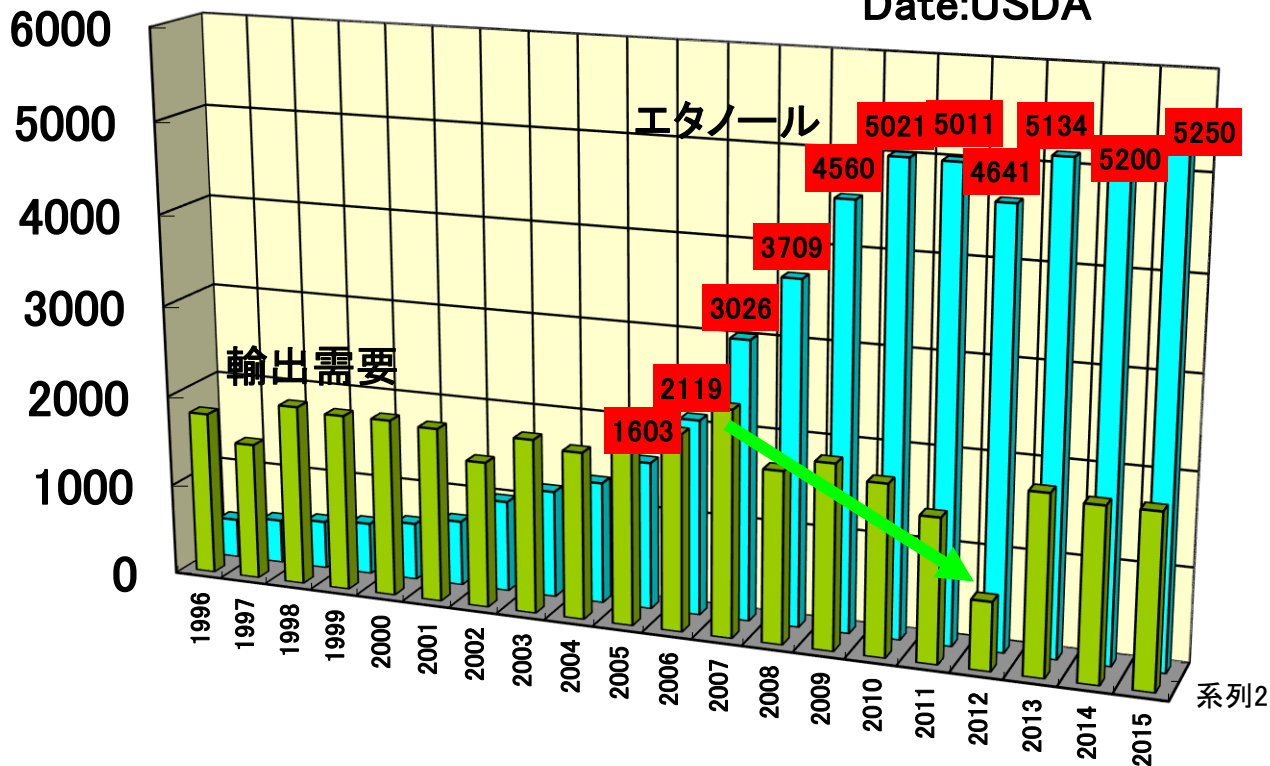
エタノールと輸出需要推移

エタノールは2500万Bu上方修正、輸出は2500万下方修正

コーンエタノール需要と輸出需要

単位:100万Bu

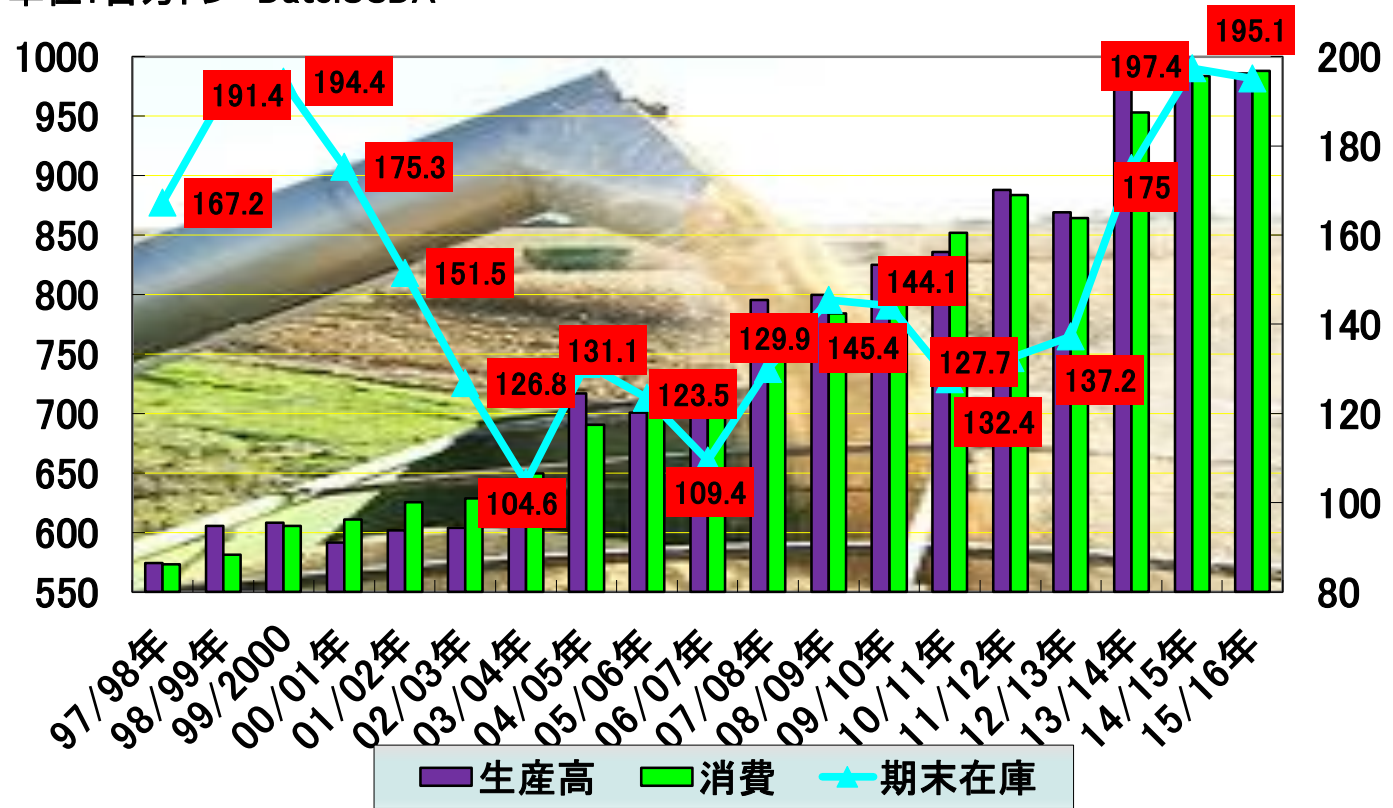
Date:USDA



2014/15年世界期末在庫は1億9742万トンと+347万トン、
 2015/16年世界期末在庫は1億9508万トンと+513万トンの上方修正

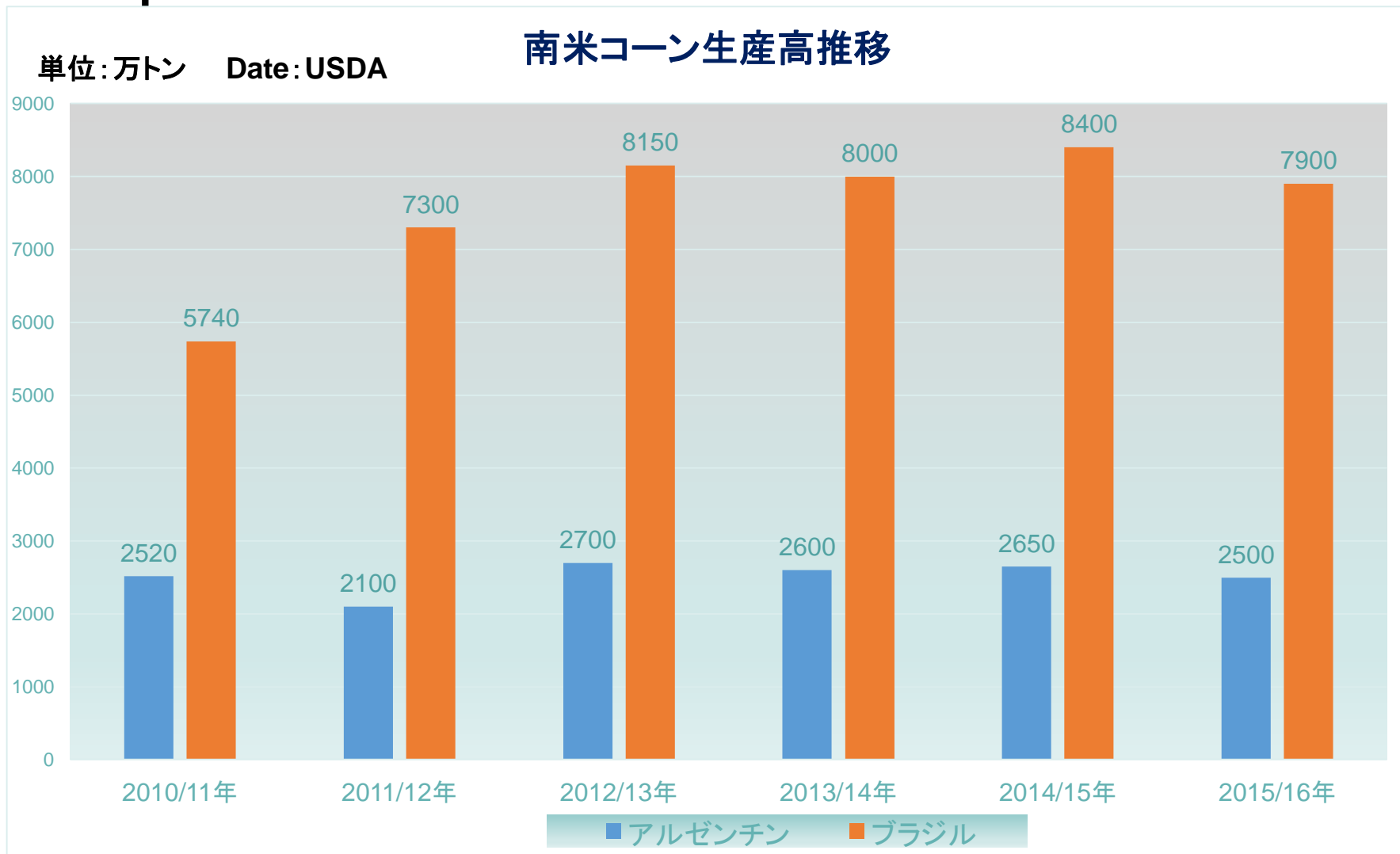
世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



南米コーン生産高推移

ブラジル生産高 新穀旧穀とも+200万トンの上方修正



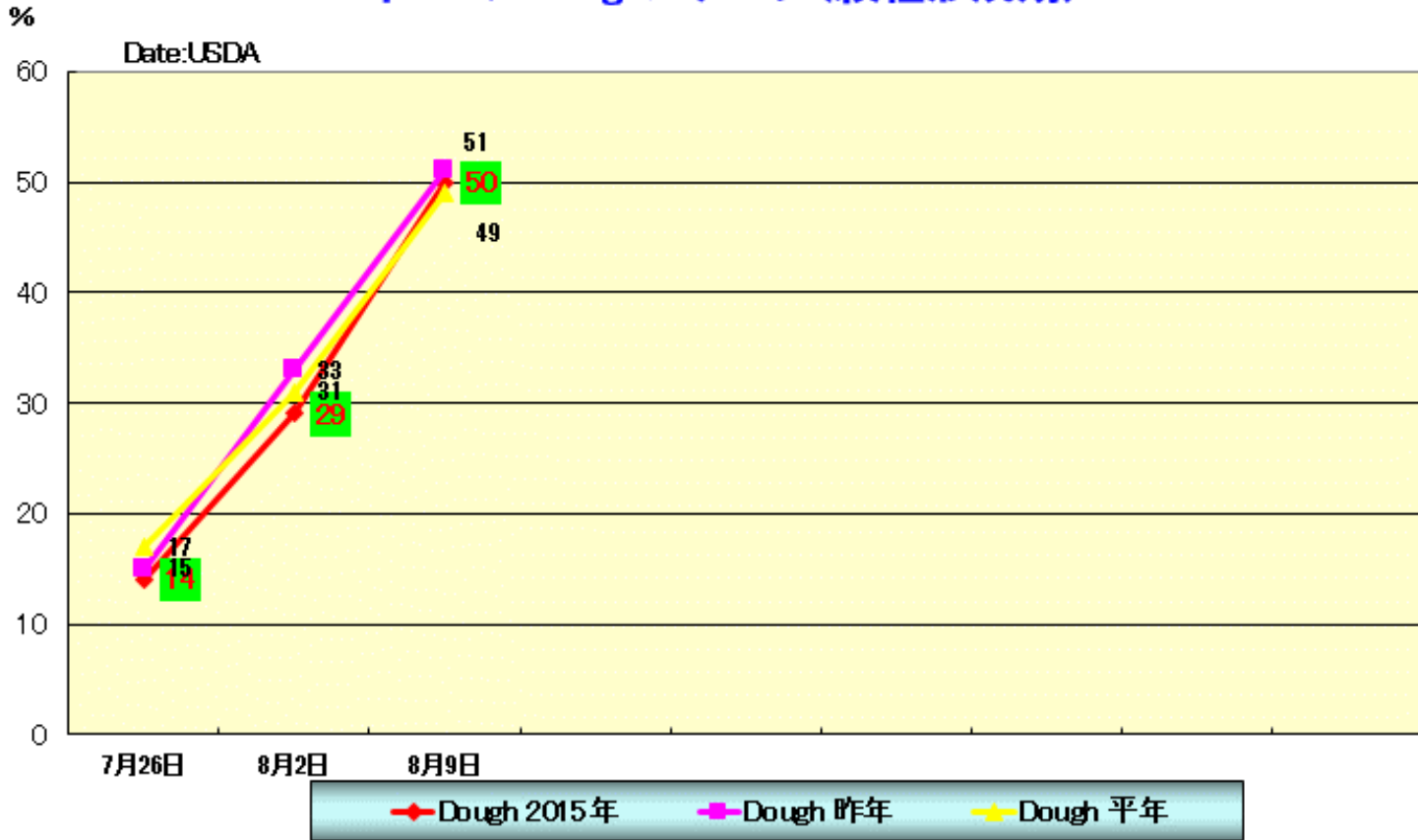


世界コーン需給

- 2014/15年世界コーン生産高は、前月から450万トンの引き上げで10億624万トンと史上初の10億トン超えとなりました。ブラジル生産高が前月から+200万トン(8200→8400万トン)アルゼンチンが+150万トン(2500→2650万トン)引き上げられました。2014/15年世界コーン期末在庫は、1億9742万トンと前月から347万トンの上方修正となりました。
- 2015/16年世界コーン生産高は、ブラジル+200万トン(7700→7900万トン)、米国+397万トン(34367→34764万トン)、ウクライナ+100万トン(2600→2700万トン)引き上げられましたが、中国-400万トン(22900→22500万トン)、EU-352万トン(6577→6225万トン)と下方修正にされたことにより、9億8560万トンと前月から150万トンの引き下げとなりました。ただ2015/16年世界期末在庫は、消費減、期初在庫の増加により、1億9508万トンと+513万トンの上方修正となり、予想平均1.88億トンを上回りました。

8/9時点シルキング96%終了 穀粒形成50%と順調

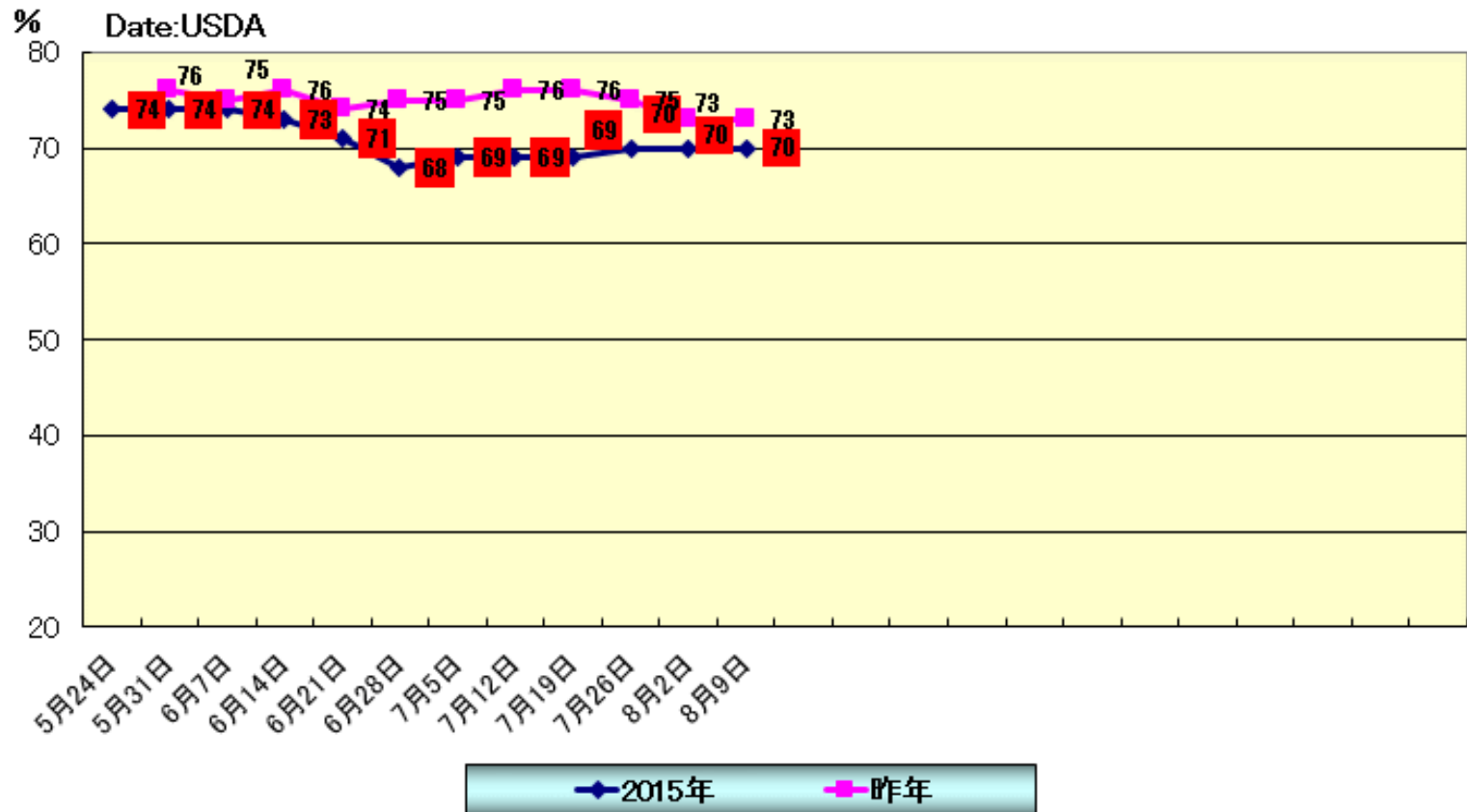
2015年コーンDoughステージ(穀粒形成期)



コーン作柄状況

8/9時点、優+良70%と問題なし

2015年コーン作柄状況(主要18州)・優+良比率



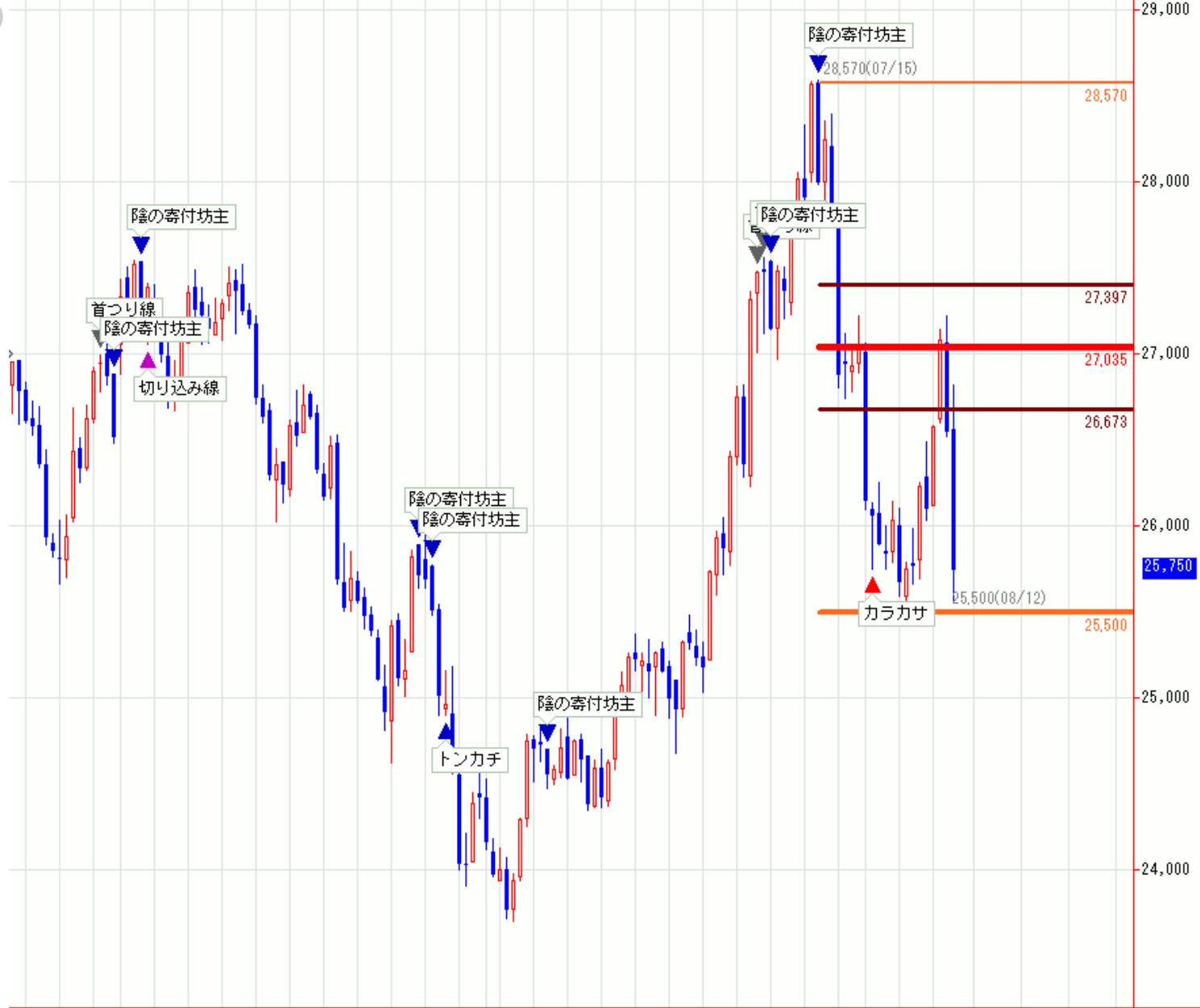


結論

- 6月からの大雨による作柄悪化で3億Bu程度の生産高の下方修正が予想されていましたが、真逆の結果となりました。現地視察によるイールド見通しが、168.8Buと2.0Buの引き上げとなり、引き下げの予想平均164.5Buを大きく上回りました。エタノール需要引き上げと、輸出の引き下げが相殺、需要面も強い数字とはいえない。2015/16年米国期末在庫は17億1300万Buと1億1400万Buの上方修正となり、市場予想の14.24億Buを大幅に上回り、当日のシカゴ市場は、投げ殺到で一時ストップ安の急落症状となりました。結果的に2008年同様洪水の作柄悪化生産減をはやして買った筋がババ引く結果となりました
- 世界需給では旧穀が南米豊作で需給緩和がすすみ、世界期末在庫は旧穀新穀とも上方修正となり弱気の数字といえる。
- 東京コーン先限も7/15-8/4にかけての下げ幅の半値戻しを達成、絶好の売り場を提供しました。今回真逆の数字が出たことにより、強気できる状況ではなく、大勢戻り売りスタンスがベターでしょう。

東京コーン先限日足

IGCC (東京とうもろこし) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2015/08/13 L=25,750 -800 -3%





大豆 (SoyBean)

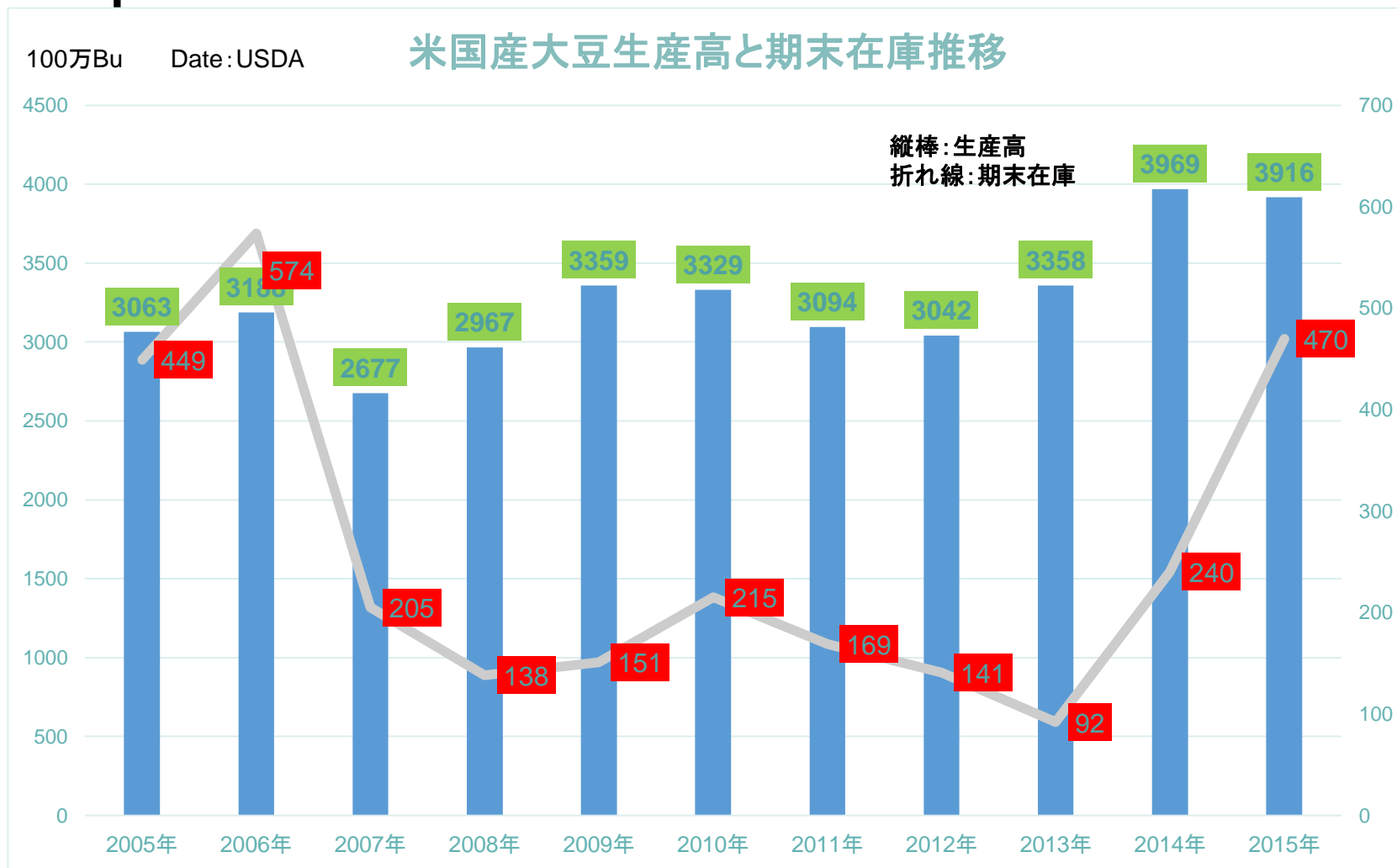
8/12発表USDA大豆需給報告

期末在庫は4億7000万buに上方修正

2015／16年度

作付面積:	8430万エーカー	(8510万エーカー)
収穫面積:	8350万エーカー	(8440万エーカー)
単収	: 46.9Bu	(46.0Bu)
期初在庫:	2億4000万Bu	(2億5500万Bu)
生産	: 39億1600万Bu	(38億8500万Bu)
輸入	: 3000万Bu	(3000万Bu)
供給合計:	41億8600万Bu	(41億7000万Bu)
圧砕	: 18億6000万Bu	(18億4000万Bu)
輸出	: 17億2500万Bu	(17億7500万Bu)
種子その他:	1億3200万Bu	(1億3000万Bu)
消費合計:	37億1700万Bu	(37億4400万Bu)
期末在庫:	4億7000万Bu	(4億2500万Bu)
在庫率	: 12.6%	(11.3%)

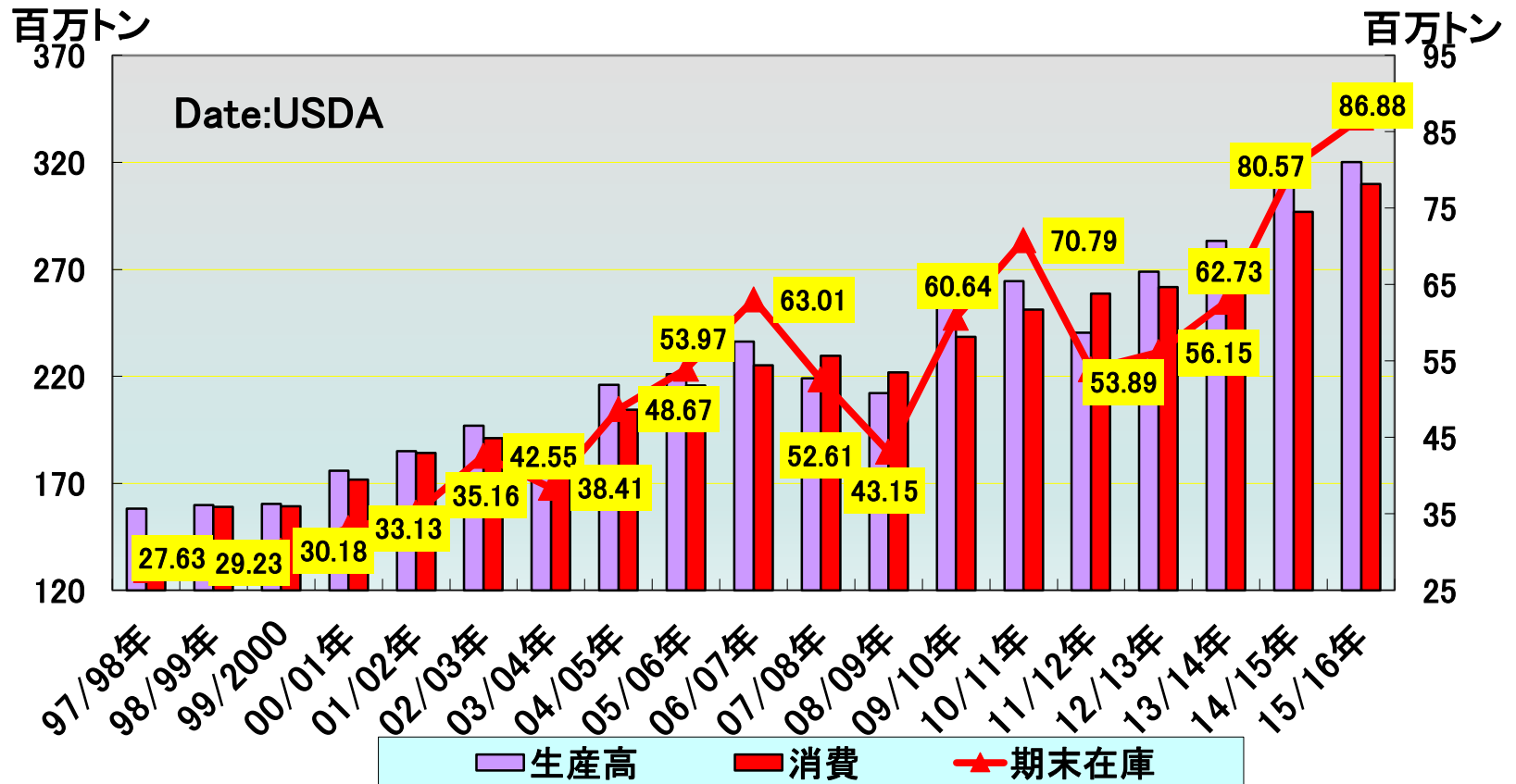
2015/16年米国期末在庫は4500万Buの上方修正



世界大豆需給推移

2015/16年世界期末在庫8688万トンと、前月から492万トンの引き下げ。

世界大豆需給



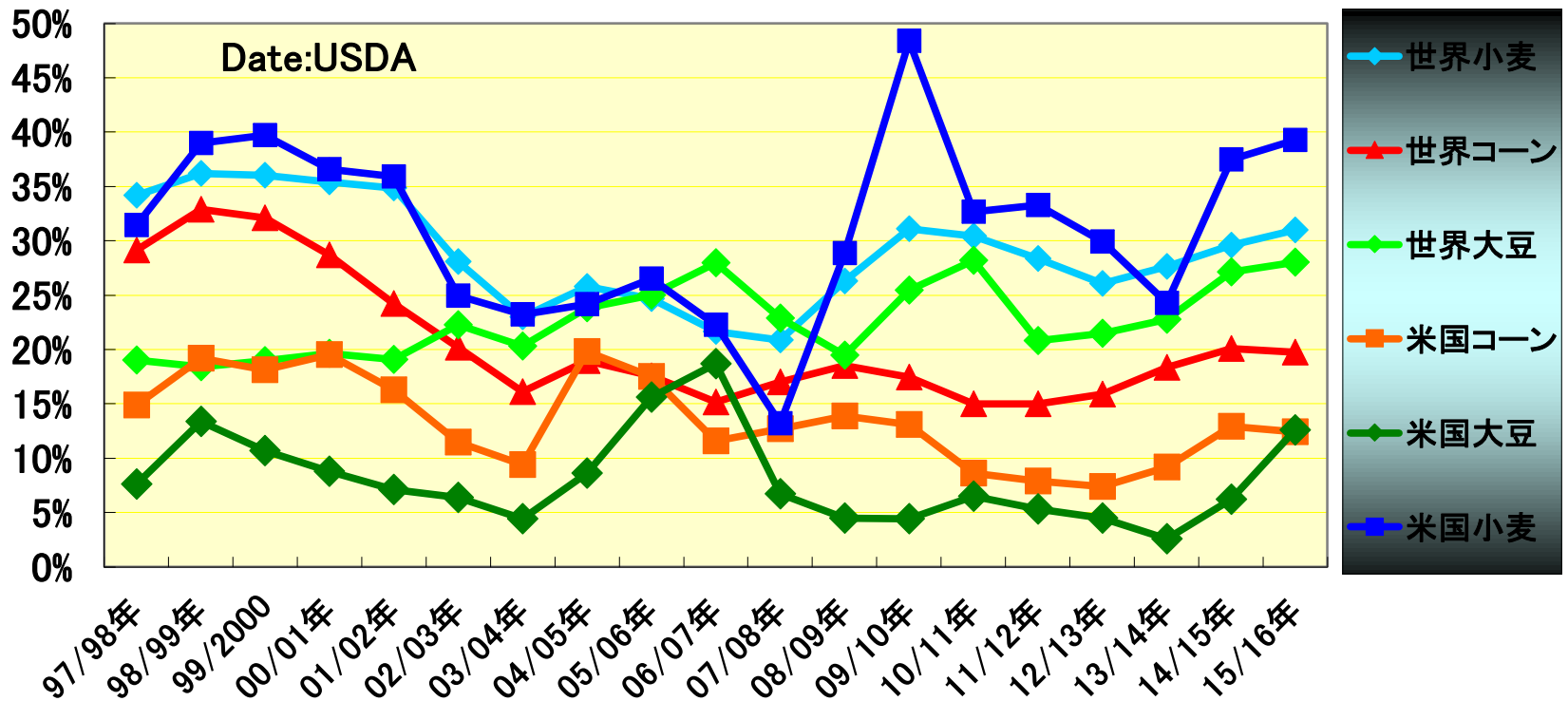
世界大豆需給

- 2014/15年度世界大豆生産見通しは3億1936万トンと前月から76万トンの上方修正となりました。アルゼンチン生産高が+80万トン(6000→6080万トン)に増産、ブラジル生産高は、9450万トンに据え置きとなりました。2014/15年世界大豆期末在庫は、8057万トンと予想平均8170万トンを下回り、前月から111万トンの下方修正となりました。
- 2015/16年世界大豆生産高は3億2004万トンと米国増産により、113万トンの上方修正、2015/16年世界大豆期末在庫は、南米の在庫減で前月から492万トン引き下げて8688万トンとなり、予想平均9080万トンを下回りました。

世界穀物在庫率推移

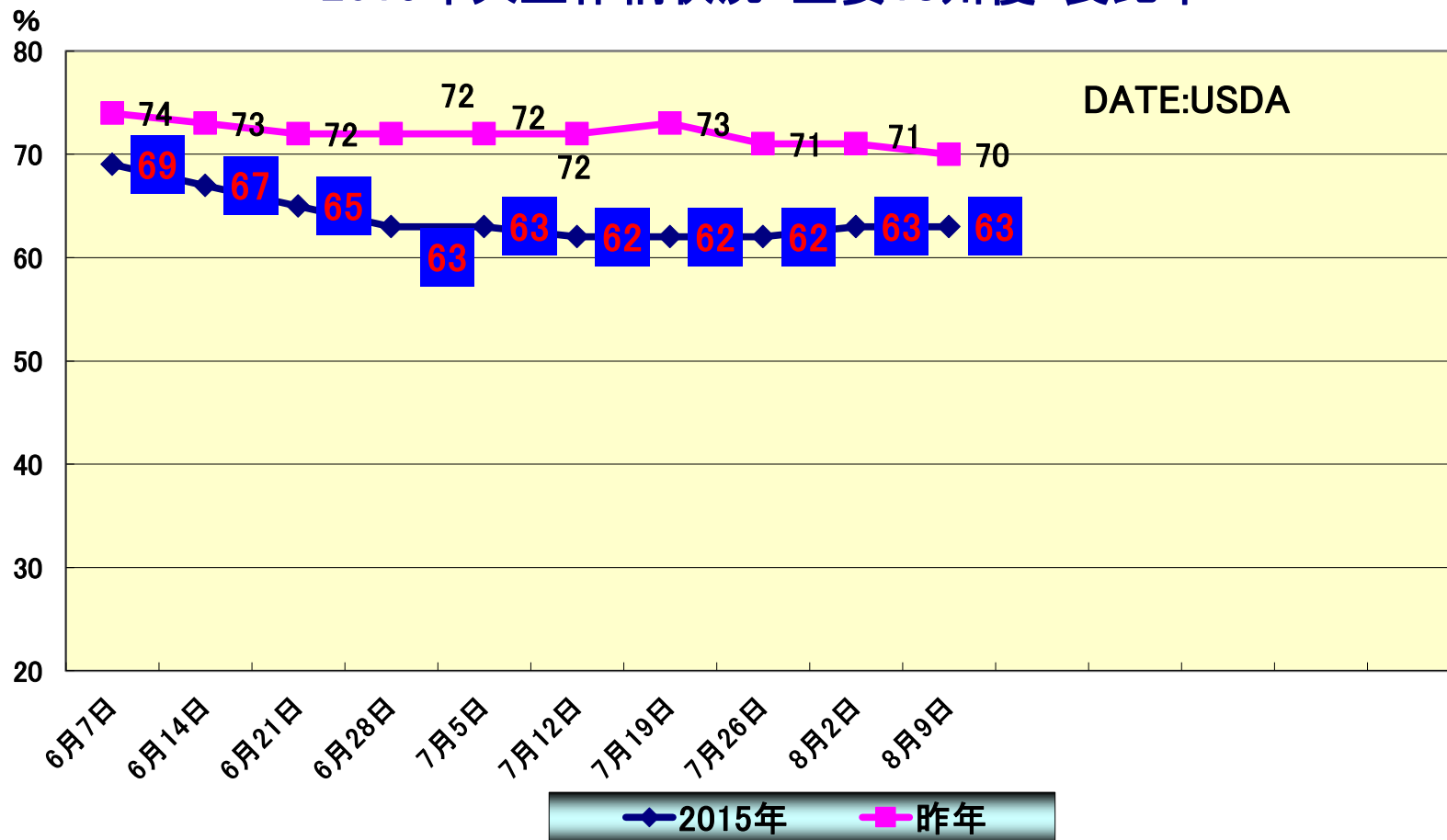
穀物の中で一番大豆が需給緩和がすすむ。

穀物在庫率推移



米国大豆作柄状況 8/9時点優+良63%

2015年大豆作柄状況・主要18州優+良比率





結論

- 収穫面積90万エーカー引き下げられたもののイールドは予想外に0.9Bu引き上げとなり、生産高は39.16億Bu(予想37.24億Bu)と前月から3100万Buの上方修正となった。需要面も輸出の引き下げが大きく消費計は2700万Bu下方修正され、結果新穀大豆期末在庫は4.7億Buに引き上げられ予想平均3.01億Buを大幅に上回り、弱気の数字となりました。世界需給では在庫が予想外に減少したとはいえ、意外にネブラスカ、ミネソタの生産が好調で基本戻り売りがベターでしょうか。東京一般大豆先限も7/28安値51800円を割り込み、底抜けとなっている。
- 8/9現在のクローププログレスによると大豆開花率88%(平年91%)、着サヤ率69%(平年66%)と平年並みに進捗している。作柄状況の優+良の比率は、63%と生育に問題ない。

一般大豆先限日足

JGSS (東京一般大豆) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2015/08/14 L=50,730 +20 +0%





商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員
経済産業省 平成22・12・22商第6号
農林水産省指令22総合第1351号

- ・お客様相談窓口
大阪本社管理部
TEL:0120-346-492
東京統括店管理部
TEL:0120-182-461
- ・商品先物取引苦情相談センター
日本商品先物取引協会(東京)
TEL:03-3664-6243



- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高150,000円、最低10,000円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約15倍から約55倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約8倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成27年8月3日現在)